

平成23年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	イタイイタイ病及び慢性カドミウム中毒に関する総合的研究		担当部局庁	総合環境政策局環境保健部		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成13年度		担当課室	企画課保健業務室		加藤 祐一	
会計区分	一般会計		施策名	7-1 公害健康被害対策(補償・予防) 9-3 環境問題に関する調査・研究・技術開発			
根拠法令(具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	イタイイタイ病に関しては、カドミウムばく露により近位尿細管機能異常が生じることは明らかになっているが、腎障害や骨軟化症の発症機序、カドミウムばく露との因果関係等については未だ十分に解明されていない。本業務は、イタイイタイ病に関する知見を収集・整理するとともに、カドミウムの生体内動態や生体影響等のメカニズムの解明を図るなど、イタイイタイ病及び慢性カドミウム中毒等に関する総合的な研究を行い、カドミウムによる健康影響とその自然史を解明するための各種知見を得ることを目的とする。						
事業概要(5行程度以内。別添可)	<p>「イタイイタイ病患者や汚染地域を対象とした研究領域」及び「カドミウムの吸収・毒性メカニズムの解明に関する研究領域」の2つの領域において、研究内容に応じて6つの研究班を設置し、臨床的、基礎的な研究を実施している。本事業の推進にあたり、業者に委託し、研究費の配分等を行っている。</p> <p>現在の研究内容は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カドミウム汚染地域における近位尿細管障害と生命予後等に関する疫学研究</li> <li>・カドミウム汚染地域の骨代謝異常及びイタイイタイ病関連資料に関する研究</li> <li>・カドミウムにより近位尿細管機能異常に関する研究</li> <li>・カドミウムばく露によるリン代謝異常に関する研究</li> <li>・Toxicogenomicsアプローチによるカドミウムの毒性発現のメカニズム解明に関する研究</li> <li>・Toxicogenomicsアプローチによるカドミウムの輸送のメカニズム解明に関する研究</li> </ul>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
		補正予算	52	42	42	37	34
		繰越し等	0	0	0	0	
		計	52	42	42	37	34
	執行額	43	35	28			
	執行率(%)	83%	83%	67%			
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	<p>本事業は、第三者により構成される研究評価・推進委員会での議論を踏まえて、現在6つの研究班の研究を支援しているが、研究活動を行ううえで定量的な指標を設定することは、各研究班の学術研究分野を限定することになるため困難である。</p>	成果実績					
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	<p>学術研究は、真理を探究し、新たな知を創造するものであり、それを支援する本事業では定量的な指標を設定することは困難であるが、参考までに研究班が発表した論文数や学会活動の状況の合計を右に記載する。</p>	活動実績(当初見込み)	論文発表	37	26	31	-
<td>学会発表</td> <td>47</td> <td>49</td> <td>55</td> <td>( )</td>	学会発表	47	49	55	( )		
単位当たりコスト	- (円/ )	算出根拠	活動指標及び活動実績として敢えて上記に掲載したが、一般的に各論文等を一本当たりの単価として単純に算出することは困難であると考えている。				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	公害調査等委託費	37	34	研究内容の整理・合理化による減。			
	計	37	34				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	－	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	イタイタイ病は神通川流域における公害健康被害であり、慢性カドミウム中毒も一部の地域に限られるが、民間の研究機関等では対象とされないため、国が実施する意義は非常に大きいと考えられる。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	委託業者の選定においては一般競争入札としている。また研究課題の選定や研究内容の評価等については、推進委員会、評価委員会を組織し、第三者の評価を受けることとしている。
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	研究の性質上、定量的な目標や成果については設定が困難であるが、カドミウムによる健康被害について基礎的研究、臨床的研究をバランスよく実施している。
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	本研究事業で実施した各研究班は、外部委員により評価をうけるシステムとなっており、その結果を踏まえて研究継続の可否、研究内容の変更等を行っている。カドミウムによる健康影響といった国が取り組むべき課題について、効率よく研究が行われている。		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	研究の目標達成度を評価しつつ、より少ない予算で成果があげられるよう努力すべきである。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）			
縮減	検討会数、外注費等を見直すことにより、概算要求額を縮減。		
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

環境省  
28百万円

研究全体の企画・監督、委託業者への指導



【一般競争入札・委託】

A 日本エヌ・ユー・エス(株)  
28百万円

研究全体に係る事務、研究費の配分、執行状況の確認



【再委託(継続研究)】

B 大学・病院等(4機関)  
26百万円

研究の遂行

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：百万円)

A.日本エヌ・ユー・エス(株)			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
外部委託	委託先:愛知学院大学教授 Toxicogenomicsアプローチによるカドミウムの毒性発現と輸送のメカニズム解明に関する研究	10			
外部委託	委託先:荻野病院院長 カドミウム汚染地域住民の骨代謝異常及びびタイタイ病関連資料に関する研究	7			
外部委託	委託先:金沢医科大学教授 カドミウム汚染地域における近位尿管障害と生命予後等に関する疫学研究	5.5			
外部委託	委託先:徳島大学大学院教授 カドミウムばく露によるリン代謝異常に関する研究	3.5			
人件費	研究発表会等の準備、研究報告書の作成に係る人件費	1			
その他	報告書に係る印刷製本費、一般管理費、消費税	1			
計		28.0	計		0
B.大学・病院等(愛知学院大学教授)			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
研究費	Toxicogenomicsアプローチによるカドミウムの毒性発現と輸送のメカニズム解明に関する研究	10			
計		10	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごと  
 に最大の金額が支出され  
 ている者について記載す  
 る。費目と使途の双方で  
 実情が分かるように記  
 載)

## 支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本エヌ・ユー・エス(株)	研究全体に係る事務、研究費の配分、執行状況の確認等業務	28	4	98.8%

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	愛知学院大学教授	Toxicogenomicsアプローチによるカドミウムの毒性発現と輸送のメカニズム解明に関する研究	10	—	—
2	荻野病院院長	カドミウム汚染地域住民の骨代謝異常及びイタイイタイ病関連資料に関する研究	7	—	—
3	金沢医科大学教授	カドミウム汚染地域における近位尿細管障害と生命予後等に関する疫学研究	5.5	—	—
4	徳島大学大学院教授	カドミウムばく露によるリン代謝異常に関する研究	3.5	—	—